【商工会での取り組みについて】

Ｅ：　商工会の者ですが、日ごろの取り組みは、９８件の小規模業者の会員の方を中心に、地区内に１３１件の商工業者の方を対象に、税務相談から金融相談、経営革新に向けた取り組み、後継者対策等、経営全般に対しての相談やアドバイスに携わっています。

平成２２年度は、地域アクションプランにも取り上げていただいた地場産品直売施設の「かっぱ市」の機能強化ということで、高知県産業振興推進総合支援事業の特別分の採択を受けることができました。

かっぱ市については、ハードとソフト面について両面で計画を立てるにあたってお手伝いして、１０月にはリニューアルオープンしますので、お越しいただけたらと思います。

現在の活動としては、特に商業機能の維持に向けた活動に取り組んでいます。具体的には、高知県の東部自動車道の芸西西―安芸西間供用開始に向けて調査事業費が平成２３年度に予算化され、早ければ１０年後ぐらいには開通するのではと言われています。しかし、その前に和食地区を中心とした商工業者の方の移設の問題に直面することにより、生活利便性の欠如や買物難民が発生するといった影響があるのではということで、行政の方はもとより、私たち商工会は非常に大きな危機感を感じています。

こういった課題に対して、商業機能のビジョンを策定することによって、今までのような場当たり的な対応でなく、ビジョンに基づいた活動を行おうと、芸西村の商業機能の維持に取り組んでいます。

今後の活動についてですが、現在、６年目を迎える村の振興計画の商工業の基本計画の中に、１．５次産品の開発、商品化を取り上げていますので、これをテーマにして活動を行いつつあります。

具体的には、黒砂糖の製造技術というものが伝承されており、産業振興計画の中で黒潮町の黒砂糖を使ったものがあると思いますが、それは芸西村から技術が伝承されていったのではないかということです。芸西村では伝承館という施設で、毎年１１月から黒砂糖を製造しています。特に、芸西村の場合は、黒砂糖という呼び方ではなく、製造の過程の違いによって白玉糖、白下糖といったちょっと白っぽいまろやかな黒砂糖を作って、少量ですが販売もしています。

商品化に向けては、原材料の確保等の課題はありますが、白玉糖と黒蜜を使って、地元の酒造会社と協力して梅酒の試作品を作ってみようかと、小さな一歩を始めたところです。

商工会ということで、地元の素材を使ってものづくりを頑張らなければいけないと思っています。県の「ものづくり地産地消センター」を是非活用してやっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

知事：　東部自動車道の、芸西西－安芸西を着工することになったことで、県全体としては、「８の字ネットワーク」の整備促進、命の道、防災の道、また産業振興の道と、いろい

ろな意味のある道だと思っています。地元の関係の皆様方には工事に際して大変ご迷惑をおかけし、その点は本当に申し訳なく思っています。

先ほどの移設の影響というのは、むしろプラスに転じていくというお話かと思いますが、商業ビジョンをこれから芸西村の皆さんや商工会の皆さんで作っていこうとされているということですね。

「高知県こうち商業振興支援事業費補助金」など、県の支援メニューを使っていただければと思います。また、移設の影響などについて我々もよくよく踏まえていきながら対応していきたいと思います。

それと、黒砂糖については、黒潮町は、それをメインに地域アクションプランで取り組まれているところですが、芸西村のほうは発祥の地ということで、そのまろやかな黒砂糖を是非生かしてやっていかれるのを我々も応援したいと思います。

地域アクションプランになるまでに、ステップアッププランというのもあるので、それも是非活用していただければと思います。例えば、試作品開発とかをバックアップする仕組み、よりハードルの低い、地域アクションプランの手前の段階でも応援させていただく仕組みがあって、実際、四万十市のほうでは、若い方々が有限責任事業組合（ＬＬＰ）を立ち上げて、ステップアッププランを使って先進地視察をして、かりんとうを作られたんです。東京のコンビニのネットワークでいきなり売れるようになったりと、大躍進を遂げられたところもありますので、是非、使っていただければと思います。